

被災地で感じた本当に必要な支援



ぬくもり福祉会アットホーム
夏目裕司さん

障害者支援活動中に、とても印象に残る話を聞きました。その人は、車いすで生活をする30歳代くらいの男性で、ヘルパーさんの手を借りてマンションで一人暮らし。震災発生時、トイレの中で車いすが倒れてしまい、そのまま一夜を明かしたそうです。どうなってしまうのかと、ものすごく恐怖を覚えた。翌朝、ヘルパーさんが様子を見に来てくれ、無事救助されました。しかし、外に出てぞつとしたそうです。それは、「このマンションの住民は避難済み」という張り紙があったから。人が取り残されていることに気づかれていなかったのです。近所付き合いをしてお互いを知っていたら、もう少し早く救助されていたかもしれない。普段から

顔を合わせ、声を掛け合うことが必要だと強く感じました。

ぬくもり福祉会ぬくもりの家
三浦久忠さん



障害のある人だけの避難所を確保してあったことが印象的でした。大声を出す周囲から何かを言われ、本人もつらい思いをする。やはり、専用の場所が必要であると感じました。私は、知的障害のある人たちと交流。震災の悲惨な記憶を少しでも和らげることができればと、常に楽しい会話を心がけました。また、キャッチボールをしたり畑を耕したりもしました。障害のある人は、被災時はこちらも、日中の活動の場の再開や心の傷を和らげるアフターケアなど、二重三重の支援が必要。地域みんなで助け合う関係づくりをしていきたいですね。

わたしたちにできること
障害者別支援の仕方

●**視覚障害のある人には**
周りの状況が見えず、自分のいる場所が安全かどうかの確認が難しいため、避難が遅れてしまつことが予想されます

情報と言葉で提供し、正面から声をかけ、本人の名前を呼ぶか自分の名前を名乗り誘導する

●**聴覚障害のある人には**
物音や声では気付くことができず、建物などに取り残されることがあります

筆談や携帯電話のメールなど、目に見える方法で情報を提供する

●**肢体不自由の人には**
移動するときに、車いすやつえを用いることがあります。また、重度の障害の場合は自分だけでは身動きがとれないこともあります

複数の人で協力し、避難経路を確保する

●**知的障害のある人には**
環境の変化により、パニック

になることがあります

短い言葉で状況を説明するとともに、肯定的な言葉を使う。「走ってはいけません」ではなく「歩きましょう」を使うなど

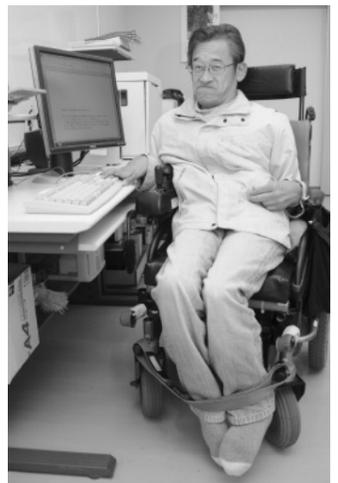
●**精神障害のある人には**
不安な気持ちになると、症状が悪化することがあり、パニックに近い状態になることがあります

気持ちが落ち着くように優しく声をかけ、具体的に繰り返し話をする

●**発達障害のある人**
パニックになったり、危険性が理解できないこともあります
無理に抑え付けず、優しい言葉で話しかけ、安全な場所に誘導してください

※これらは、障害のある人全てに該当するものではありません。できる限り声をかけ、本人の意思や状況を確認して支援してください。また、これら以外に固有の支援が必要になることもあります。

自分の存在を知ってもらえるように



加藤重家さん(横山町)

物心がついた頃には、既に全身をうまく動かせませんでした。電動車いすが足代わりです。災害時は、自力での避難は難しいと思います。だから、支援をしてくれる人が必要。自分の存在を、周りに知ってもらうことが大切だと感じています。私は、パソコンを使ったりサークル活動をしたりしてコミュニケーションをとっています。障害の程度にもよりますが、積極的に外へ出て、自分の存在をアピールし、いろいろな人とつながりを持つことが大切です。それでも、災害発生時には、遠方の知人・友人から、すぐに支援してもらうのは困難。そこで私は、「災害時要援護者支援制度」により要援護者とし

て登録しています。私の状態や存在を近所の人に知ってもらえ、少し安心感もあります。障害の状態により救助の仕方が異なります。まずは知ってもらうこと。そして、日頃の関係づくりが大切だと思います。まずは気軽に「あいさつ」から。まちで私を見かけた時にあいさつをしてもらえるととてもうれしいです。

災害時要援護者支援制度とは

援護を必要とする人の近所の人や支援者となり、災害時に助け合う制度です。要援護者の申し出などにより支援者を決め、その情報は、民生委員、自主防災組織などで共有します。しかし、支援者が不足しているのが現状です。支援者登録などについて、詳しくは、社会福祉課(☎71)2224へお問い合わせください

ぜひ受講してください

安城市ボランティア連絡協議会

私たちは、障害者支援を始め高齢者支援、地域福祉支援などを行っています。市内のボランティア団体で構成し、会員は839人です。

日頃から障害のある人や高齢者と関わっています。災害発生時、すぐに助けに行けるのが、私たちも被災者になるのでは、状況によっては移動が困難ではと、支援者の不足を感じて不安な気持ちになります。そこで、障害のある人からの声を聞きながら、災害時に必要とされる支

援をまとめた「災害時要援護者サポートブック」を作成しました。これには、車いすの使い方や障害のある人への接し方などを記載。いざという時、地域のみなどで協力し支え合えるまちにしていきたいです。



市ボランティア連絡協議会役員の皆さん

災害時要援護者サポートブック出前講座

- 内容** 障害者別の支援方法や車いす搬送の講習など
- 対象** 市内の町内会・企業・学校・老人クラブなどの団体(人数は要相談)
- 講師** 市ボランティア連絡協議会
- その他** 受講者にサポートブックを進呈
- 申し込み** 事前打ち合わせをします。希望日の2カ月以上前(休館日を除く)に、直接市社会福祉協議会(☎77)2941へ

